

カーによる日々の訪問調査によって、収入の聞き取りや通帳の確認等を行ったりしています。

さらに、暴力団等への所属が疑われる場合には、関係機関へ照会するなど迅速な対応を行っています。

一方、親族への扶養援助については、あくまで援助の依頼の範疇において、扶養義務者に対し年1回援助依頼を行うとともに、収入のある援助が見込まれる市内の親族に対しては、直接面会して援助をお願いするなど、根気強く援助依頼を行っているところです。

今後、申請時や日々のケースワークによる調査活動等によって不正受給を防止し、適正な生活保護の実施に努めていきたいと考えています。

市民の健康

問 無料クーポン事業の効果は。

答 ピロリ菌検査を導入する考えはないか。

平成24年度のがん検診受診率は、肺がん検診

は11・2%、胃がん検診6・2%、大腸がん検診11・2%となつています。また、昨年度の子宮頸がん検診、乳がん検診の受診率は、子宮頸がん検診23・7%、乳がん検診30・6%となつています。

無料クーポン券の効果により、子宮頸がん検診、乳がん検診、大腸がん検診は、無料クーポン券以外のがん検診より受診率が5%程度高くなつています。また、初めてがん検診対象になつた年代の受診率は、子宮頸がん検診、大腸がん検診、乳がん検診ともに高い受診率となつており、初めてがん検診の対象になる時期に無料のクーポン券やがん検診手帳を送付することで、がんに対する意識の向上やがん検診受診行動につながっていると認識しています。

胃がん検診には、従来のバリウム検査以外に、胃内視鏡検査、ヘプシノゲン法、ヘリコバクターピロリ抗体検査があります。厚生労働省がん検診受診向上指導事業の委員会で検討された検査の評価結果は、死亡率減少効果の有無を判断する根

拠が不十分と判断されており、市町村が実施する集団検診としてピロリ菌検査を実施することを勧めていません。

今後、厚生労働省のがん検診のあり方に関する検討会で、それぞれの検査方法が有効かどうか検証することになっていきますので、国や県の動向を注視し、科学的根拠のあるがん検診の実施に向けて取り組んでいきたいと考えています。

市立大洲病院の健全経営

問 安定的な病院経営を維持するためどのように取り組んでいくのか。

答 大洲病院では、平成25年度から29年度の5カ年を計画期間とする第2次市立大洲病院改革プランを作成したところです。

当プランは、公立病院としての使命を果たすために地域医療連携を推進し、専門性の高い良質な医療サービスを提供に努めつつ、健全経営を確保することを策定目的として、その実現のための目標を地域医療

の充実、医療の質向上、経営の健全化と設定をしています。そして、これらの目標を達成するために地域医療の充実に対する取り組み、医療の質向上に対する取り組み、収益確保の取り組み、コスト削減の取り組みの4つの視点に分類し、それぞれ具体的に取り組むべき事項と必要に応じ、数値目標を設定して計画的な病院経営に取り組みすることとしています。

また、病院経営に当たっては、決算上の損益のみにとらわれることなく、キャッシュフローを意識した経営を行っていくことが重要であるとし、現金預金の維持増加を確保した経営の健全

市立大洲病院



化を目指すこととしています。

今後も地域の公立病院として、医療の充実と質の向上を第一としながら、収益確保とコスト削減に取り組むことにより健全経営に努め、公立病院としての使命を果たしていく考えです。

微小粒子状物質

PM2.5

問 測定結果の公表と注意喚起をどのように行うのか。

答 中国の深刻な大気汚染で日本への飛来が心配されている、微小粒子状物質PM2.5の濃度が、西日本各地で環境基準値を超え、大きな問題となっております。県では、松山地域及び東予地域を中心に、国、県及び松山市の11測定局でPM2.5を常時監視しており、そのうち9測定局分の測定結果が県のホームページにリアルタイムで公開されています。

市内では、県が長浜町今坊に大屋測定局を設置し、PM2.5の大気中濃度を監視していますが、通信機